



第 6 戦

SUGO GT 300km RACE

スポーツランドSUGO

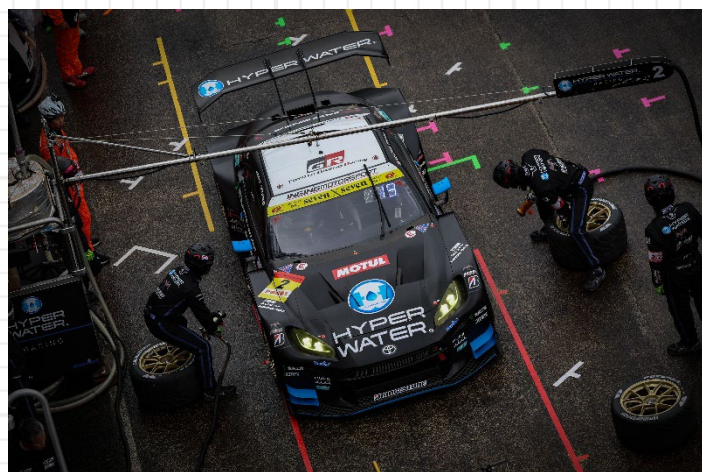
決勝

9月20日(日)

天候:雨のち曇り コース状況:ウェット/ドライ

初秋の気候となったSUPER GT第6戦SUGOの決勝レースは、9月20日に300kmレースとして開催。降雨の予報が出て路面コンディションが読めないレースとなったが、雨はほとんど降ることなくレースは進行。今回は堤がスタートを担当し、入賞を狙いタイヤは左の2本のみ交換としたため、ピット作業後は一時9位まで順位を上げた。しかし後半はタイヤの摩耗が厳しく最終盤に入賞圏内からドロップし17位でレースを終えた。

決勝：17位



仙台郊外のスポーツランドSUGOで開催されたレースは気温23℃、路面温度25℃と前戦の鈴鹿から一気に涼しくなった。コースはうっすらと濡れていたが、決勝前のウォームアップ走行でレコードラインはほぼ乾いた。しかしラインを外すとウェットパッチは残っており、GT500車両にラインを譲ることの多いGT300車両は慎重な走行が要求される。タイヤは全車がスリックタイヤを装着してスタートを迎えた。

13時30分、セーフティカー(SC)先導で決勝レースがスタートし、4周完了でSCが隊列から離れバトル開始となった。スタートを担当したのは堤で、5台による11位争いを展開していたが、タイヤを温存するために無用なバトルを避けペースを落とし、14周目には14位で様子を伺う走行。15位を走行していた25周目に、最終コーナー先でアクシデントが発生し、FCY(フルコースイエロー)からSC導入となった。

GT500、GT300それぞれに隊列を整えたことで各車の差は一気に縮まり、31周完了でレースはリスタート。堤は次の32周でピットインしト部に交代。給油を済ませタイヤは摩耗の激しい左の2本のみを交換することで、ピットの滞在時間を短縮した。ト部は暫定19位でコースに戻り再び隊列に。41周目には10位まで順位を上げるようになった。

全車がピット作業を済ませた50周目には5台による8位争いのバックの中、ブリヂストンタイヤユーザートップの9位を走行していたが、そこからラップタイムを上げられず徐々にポジションダウン。それでも62周目からは14位を死守する走りで見事入賞圏内の周回を続けた。しかし後続をブロックし続けた結果タイヤの摩耗は進み、最終盤の77周目には15位へ。何とか1ポイントを獲得したかったが、翌周には2台にかわされ17位ヘドロップ。79周でチェッカーを受けたが、残念ながらポイント獲得はならなかった。

次のレースは4週間後の10月17～18日、オートポリスにおいて3時間レースとして開催される予定。なお、第3戦マレーシア戦の代替戦が最終ラウンドのもてぎで開催されるため、最終戦の3つ前のレースとなることからサクセスウェイトの軽減はない。



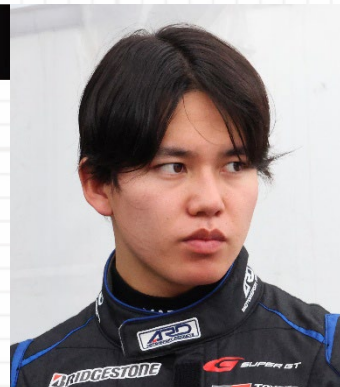


ドライバー 堤 優威

「持ち込んだタイヤと路面のコンディションが合わず、このような結果になるのは仕方がない部分もあったかと思います。僕のステントではタイヤをもたせようとわざとペースを落とした走りをしていました。ピット作業後はかなり前に行くことができたのでポイントが取れそうだったのですが、ちょっと踏ん張れなかったというのは残念です。2回目のFCYまでは11位あたりを走行していたので、うまくやればポイントを取れたかもしれません。ト部選手も今回はいろいろなことが勉強になったと思います」

ドライバー ト部 和久

「GT300でSUGOを走るのは今回が初めてだったのですが、自分の中で試すことのできるいろいろな電子デバイスを試すなどして、すごく勉強になったロングステントになったなと思います。序盤のペースの上げ方とか、もうちょっとドライバーでやれること、タイヤ、そしてクルマでやらなければならないことを明確にする必要があると思いました。次のオートポリスもタイヤにきついサーキットなので、そこに向けてしっかり準備して行きたいと思っています」



監督 加藤 寛規

「今週のSUGOに私たちが持ち込んだタイヤが、今日のコンディションに全く合わなかったで、予想どおり非常に苦しいレースになりました。他のブリヂストンタイヤのユーザーも同じような結果に終わりましたし。そこはもうどうにもならないので、次のオートポリスに向けて頑張るしかありません。オートポリスはチームにとって得意なコースですから。ただサクセスウェイトが重いままなのですが、3時間と長いレースになるので、上位を狙うことができるかもしれません。とにかく頑張るのみです」

